



『現代の二都物語：なぜシリコンバレーは復活し、ボストン・ルート128は沈んだか』

アナリー・サクセニアン著；山形浩生，柏木亮二訳
日経BP社／日経BP出版センター（発売）

本 館

請求記号：K/549/Sa98

資料ID：109333773

商学部教授 田畠 真弓

日本企業の衰退が叫ばれて久しいですが、なぜ日本企業のイノベーションが進まないのかについて原因の究明は行われていません。この疑問に対してサクセニアン教授（カリフォルニア大学バークレー校）の執筆した『現代の二都物語』が参考になります。米国には西海岸のシリコンバレーと東海岸のボストン・ルート128という二つの産業集積地が存在します。シリコンバレーからはスタートアップ企業が続々と誕生し、アップル、グーグル等世界的なIT企業が生まれました。一方、東海岸のボストン・ルート128からは革新的な企業が誕生せず、衰退してしまっただけです。サクセニアン教授によれば、この二つの地域には全く異なる文化、社会的な背景があることがわかりました。シリコンバレーにはアジア系移民が多く、近隣のサンフランシスコにはゲイのコミュニティがあり、多様な文化や人種を受け入れています。多様性から新しいアイデアが生まれる活気のある地域です。一方、ボストンのルート128は、伝統的な白人社会で、閉鎖的で上下関係の厳しい企業が多く、多様性を受け付けない土地がイノベーションを生まなかったのです。このように、イノベーションには多様な文化を受け入れる自由な空間が必要です。日本も多様化を進めていますが、海外に比べるとその足取りは重く、海外に関心のない人々も少なくありません。本書のケーススタディは、今後の日本の社会の発展を考える上で重要な示唆を与えてくれるでしょう。